特集 下水道の清掃

「誰かがなすべきことを、する」

そもそも下水道管とは

私達の暮らしの中で使われた汚水や、町に降った雨水や雪が解けた水などは、家の中にある排水口や道路にある側溝を通って、道路の下にある下水道管に流れます。下水道管とは、汚水をきれいにする水処理センターに流したり、雨水を川や海へ流したりするための管路施設です。

中部下水道事務所職員
神保さん（土木職）

清掃する目的

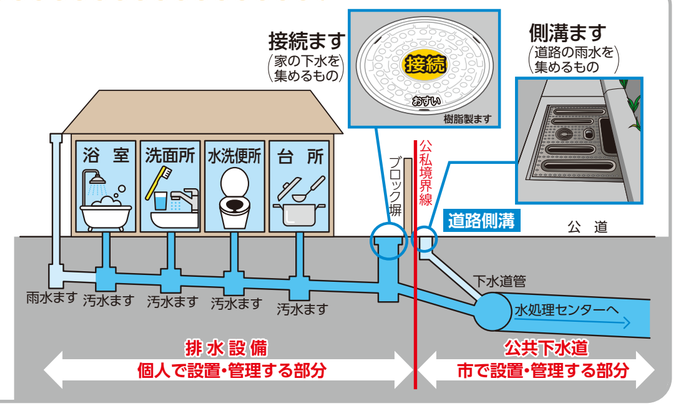
［下水道管をきれいにする］ 汚水が流れる下水道管は、油が固着していたり、汚れがついていたりしています。雨などが流れる下水道管は、土砂が溜まってしまいます。そのままでは、汚水や雨水が下水道管の中を流れにくくなるため、定期的に清掃しています。

［下水道管の状態を確認する］ 道路の下に埋まっている下水道管は、地上から直接見て点検することができません。そのため、清掃時に管の状態を確認しています。また、人が入れる箇所では、管の中に入って確認することがあります。

下水の流れが悪いときは、“接続ます”を確認しよう！

川崎市上下水道局は、公道などに埋まっている公共下水道を管理しており、皆さまは、ご自宅に設置する排水設備を管理していただいております。下水道管が詰まったときは、ご自宅と公道の境界にある「接続ます」の蓋をあけて詰まっている箇所を確認してください。この「接続ます」が水で満ちているようなら、上下水道局が管理する下水道管とつながっている管が詰まっている可能性があるため、上下水道局にご相談ください。また、「接続ます」の中が水で満ちていない場合は、排水設備が詰まっている可能性があります。

ご相談は上下水道お客さまセンター
水道の漏水や下水道の詰まりなど修繕関連
［24時間受付 年中無休］ ☎0120-014-734

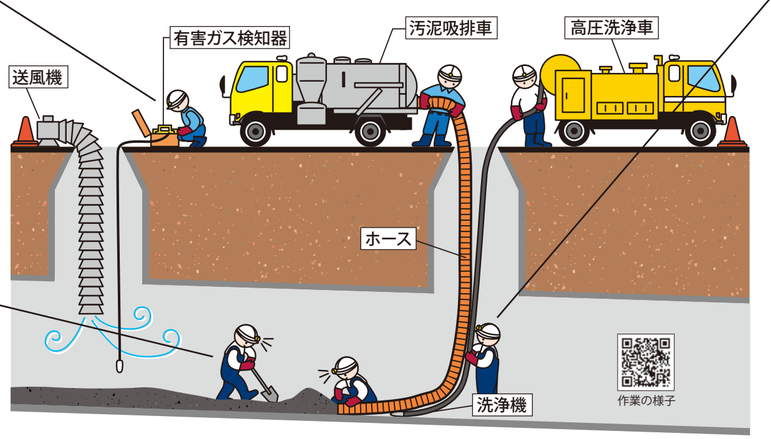


1 準備をする

下水道管の口径が小さい管では器具を使って、口径が大きな管では人が入って、清掃します。管内は、密閉されているので酸素が薄い場合や、硫化水素という有害なガスが発生している場合もあるので、まずは、マンホールの蓋を開けて、送風機で換気を行います。換気した後に「有害ガス検知器」で管内の空気を測定して、安全な環境であることを確認します。

3 清掃開始

汚泥吸排車のホースを使って、下水道管の中に堆積した汚れた泥や砂を吸い上げます。ホースを一点に刺すだけでは、全ての泥は吸い上げられないので、先端を掃除機の様に動かして、多くの泥を吸いこみます。



2 マンホールの中へ

マンホールの中にある金属製のハシゴをつたって、下水道管の底へと降りていきます。暗く狭い管内では、ヘルメットに装着したライトを頼りに、高圧洗浄車に付いている洗浄機を使って、付着した汚れや小石などを水圧で落とします。落とした汚れや小石などは、跳ね返って目に入ってしまう可能性もあるので、細心の注意を払って作業を行います。

4 確認作業

下水道管の中がきれいになっているか確認したり、破損していないか点検したりします。問題がなければ、使用した器具を片付けて、清掃は終了です。

この生活を守る

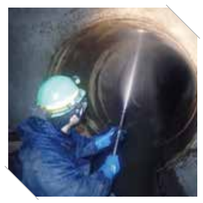
普段、家で使った汚水や町に降った雨水を流せる環境を保つために、下水道管の定期的な清掃や点検などをしっかりと進めるといった意識で、維持管理に取り組んでいます。市民の皆さまの生活環境に直結している仕事なので、責任は重いです。それでも、下水道を普通に使える生活を守るために、誰かがなすべき仕事に携わっていることを誇りに思っています。皆さまには、下水道管に油やゴミなどを流さないよう、正しく使っていただきたいですね。

清掃しないとどうなるの？

ちゃんと清掃していないと、下水道管の中に汚れた泥や砂が溜まってしまい、水が流れにくくなったり、下水道管が腐食したりするので、下水道の健全な機能を維持するために、定期的にきれいにしておく必要があります。

どんなトラブルが起こるの？

下水道管に流してはいけない油やゴミが流されて管内で固まってしまった場合、通常の作業で使用する器具では取ることができず、水の圧力をさらに上げた器具で取り除く必要があるため、清掃に時間がかかる場合や、緊急作業が発生することに繋がります。



市制100周年記念コラム　～上下水道の歴史～

これからはじまる Colors, Future! Actions さあ、いっしょに。
100th
2024年、川崎市は市制100周年

下水道工事前

下水道工事後

下水道の歩み

川崎市が誕生した大正13年は、市内に下水道が整備される前の時代でした。それから2年後の大正15年に下水計画の調査に着手し、昭和6年から川崎駅を中心とした旧市街地の浸水対策として、本市の下水道事業は始まりました。その後、昭和36年には神奈川県下初の本格的な下水処理場となる現在の入江崎水処理センターを整備しました。

当時から今日に至るまで、東京湾や多摩川の河口部に面した低地部で浸水に脆弱な地形や、高度経済成長期以降の産業規模の拡大や人口増加に伴う水質汚濁など、様々な困難と遭遇しながら、長い歳月を費やして、川崎の下水道を築いてきました。